

つなぐ



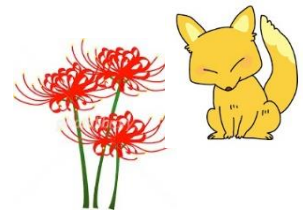
諫早市立大草小学校  
特別支援教育  
コーディネーターだより  
H30.9.28 No.17  
文責 林田

## ☺ もの想う秋かな ☺

大草にも随所に秋の気配が漂っています。彼岸花が群生している様子を見ると、4年生の国語科の教科書に出てくる「ごんぎつね」の話思い出します。「兵十とごん」の心のすれ違いが招いた悲劇とも言える物語の結末に、心を痛めた方もいらっしゃるかもしれません。自分の気持ちがうまく伝わらないもどかしさは何とも言えませんね。

大草小は全校児童の数が少なく、子どもたちは、学年の枠を超えて話せる状況にあります。しかし、中には自分の気持ちを上手に伝えることができずに困っている子がいるかもしれません。

将来、社会の中で様々な人と関わっていくためにも、自分の気持ちを分かりやすく伝える力をつけておくことはとても大切です。



## ☺ またまた研修に行っていました ☺

今回の研修は、大村市にある「長崎県教育センター」というところで、2日間に渡って行われました。特別支援教育に関する様々な内容の講義や実践発表を聞き、大草小学校の特別支援教育の進め方をじっくり考えることができました。

お話を聴いた中で、県立盲学校の先生の「見え方が気になる子ども」についての一部をご紹介します。

### 「見え方」が気になる子どもの例

- 物によくぶつかる
- 初めてのところはスムーズに歩けない
- 洋服が汚れていても気付かない
- 整理整頓が苦手である
- 音読の時、読み飛ばしが多い
- よく似た漢字を間違ふことが多い
- 定規やハサミなど道具がうまく使えない
- 人に会ってもあいさつしない など

「見え方」は、外から見て判断することが難しいため、生活の様子を観察し判断しなければなりません。授業中の様子では、例えば、

- 文字を読んだり書いたりする時、近すぎたり顔が斜めになっていたりする。
  - 文字が枠からはみ出す。
  - 指示された箇所を見つけ出すことが難しい。
  - 板書をノートに写すのに時間がかかる。
- などが挙げられます。



家庭での様子では、

- よく物を落としたり、ドアにぶつかったりする。
- テレビを近くで見たり、斜めに見たりする。
- 目の前の物を見つけるのに時間がかかる。
- 見ているようで見えていない時がある。 など



お子さんの「見え方」について、何か気になる場合は、ご相談ください。

この他、「長崎県高次脳機能障害支援センター」の方のお話も以下にご紹介します。

\*高次脳機能障害\* (支援が必要な場合があります)

○「高次脳機能障害」とは…

病気や事故(☆1)の後遺症としてみられる後天性の障害。

○高次脳機能障害の主な症状

記憶障害…さっき言ったことを忘れるなど、新しいことが覚えられず、生活や学習に支障をきたす。

注意障害…落ち着かなかつたり、ボーっとしたり、物事に集中できなくなり、日常生活の物事がはかどりにくくなる。

遂行機能障害…段取り良く行動すること、目標を立てて達成することができにくくなる。

社会的行動障害…状況に適した行動がとりにくく、感情のコントロールが難しくなる。

(☆1)交通事故、転落事故、溺水などによる低酸素脳症、急性脳炎、脳腫瘍摘出手術、もやもや病、脳血管障害など

